

前略

お元気でご活躍のことと思います。

私は十月末に高年者雇用促進法による定年後の子会社での雇用期限が切れ、退職となりました。一九七〇年以来三九年の勤務が終わりました。

退職して「暇で暇で困っているのでは？」と云われますが、今のところ、忙しくて、忙しくて・・・

退職して暇になったら、まず、健康の為に週三回位、近くの市営温水プールで泳いで身体を鍛えて・・・また、十キログラム位の荷物を背負って、三十分ウォーキングをしようと考えていたのですが、まだ、さっぱりです。暇だから、毎日のように絵を描きに行けるかと思っていましたが、まだ、一回しか行っていません。

と云う訳で、まだまだ、「毎日か

日曜日」の気分にはなっていません。

ところで、最近、ベルリンの壁崩壊二十周年とマスコミが騒いでいますが、どう思われますか？「壁」に焦点が当てられています。これは、実は、スターリン以来のソ連、東欧

の社会主義を標榜しながら、実際には、それとは無縁の独裁的政治体制が崩壊したというところに意味があると思います。「壁」そのものについて、次のような印象があります。

ベルリンの壁崩壊の頃、ミラノ勤務でした。スイスには良く出かけたのですが、スイス・イタリアの国境上にある小さな街では、街の中に国境があり、そこには高さ五、六メートルの金網の塀がありました。そして検問所があり、パスポートがわりのIDカードをチェックしていました。山の中は別として、国境に塀が

あるのが当たり前と思っていました。「壁」自体について云えば、イスラエルがパレスチナを封じ込めた壁、アメリカがメキシコ国境に築いた壁があります。ここでは壁を越えようとして銃撃されています。それらもベルリンの壁と同じように問題にすべきと思います。

二〇〇九年十月十三日

草々

山下 徹

yms.tor@mbn.nifty.com